

トで記すこと。日本語キーワードには英訳をつけること。なお、行端は要約とそろえ、本文から左右2字分さげる。また、英語キーワードは固有名詞以外の語頭は小文字にすること。-

キーワード:観光 (tourism)、観光対象 (tourist object)

(5) 各表記の行間

表題と英文表題の間はあけない。英文表題と著者名の間は1行あけ、著者名とローマ字氏名の間はあけない。

論文、研究ノート・資料・調査報告、論説の場合、ローマ字氏名と要約、要約とキーワード、キーワードと本文の間はそれぞれ1行あける。それ以外の原稿は、ローマ字氏名と本文の間は1行開ける。

(6) 所属の表記

所属は1ページ目下端部の2行分を用いて表記する。1行は本文との境界線に使い、境界線下1行に10ポイントを用い、「*所属」の形で記すこと。連名で所属が異なる場合は、「**」、「***」とし、著者名の表記部分に付した*印と対応させる。所属は簡潔に記すこと。

4. 本文

(1) 本文の文字サイズ

本文には10ポイントを用いる。

(2) 本文の章題等

本文の章題等は以下のように統一する。これ以外の小項目はなるべく避ける。

章 1. 2. 3. (数字は、全角・ゴシック体、
章題の上には空白行1行をいれる)

節 (1) (2) (3) (同、半角・ゴシック体、
節題の上には空白行を入れないこと)

項 1) 2) 3)
(同、半角・ゴシック体、項題の上には空白
行を入れないこと)

数字の後に半角スペースを入れる。章題等の文字

部分は全てゴシック体(太字にはしない)とする。章と章の間は一行あけること。

(3) 図・表・写真

それぞれのサイズが1ページを超えないものとする。また、図表中の文字等が十分視認できるように留意しなければならない。

図・表・写真のレイアウトは、縦方向については、誌面の天地に割り付けること。横方向については、図の横幅を本文の段組の1段分または2段分にあわせ、図・表・写真を段の途中で切りその左または右側の余白に文章を回り込ませて配置することは避けること。

記載の各順に図-1、表-1、写真-1のように通し番号をつける。図および写真の場合は下に、表の場合には上に通し番号とタイトルをいれる。通し番号とタイトル文字はともに、原則としてゴシック体(太字にはしない)、10ポイント、センタリング

表-1 センタリングして配置



図-1 センタリングして配置

表-2 センタリングして配置

で表記する。

さらに、論文にはカラーの図や写真、表を含めてよいが、機関誌掲載時は白黒印刷になることを前提に作成すること。

※word 操作の補足：図表の貼り付けは、拡張メタファイル形式で行うこと、その際、挿入した図表部分の間隔を「1行」(Word における段落・間隔の設定時)とすることをあわせて推奨する。

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○。

5. 補注、引用・参考文献、謝辞など

(1) 補注、引用・参考文献の見出し等

本文末に、ゴシック体9ポイントで、謝辞：、【補注】、【引用・参考文献】の順番で表記し、次行から明朝体9ポイントで記す。なお、謝辞：、【補注】、【引用・参考文献】の間は1行あける。

(2) 謝辞、付記の表記

必要がある場合は、謝辞：、あるいは付記：とゴシック体9ポイントで表記し、その後に明朝体9ポイントで記すこと。なお、謝辞と付記の併記は避け、どちらかを選択すること。

(3) 補注の本文中での表記

補注は、本文の該当箇所の右肩に、⁽¹⁾、⁽²⁾、⁽³⁾ …の記号で示し、本文末に一括して掲載する。脚注は用いない。

例 観光情報を収集して分析を加えた⁽¹⁾。

(4) 引用・参考文献の本文中での表記

引用・参考文献は、本文中の該当箇所の右肩に¹⁾、²⁾、³⁾ …の記号で示し、本文末に一括して引用順に掲載する。

例 「楽しみを目的とする旅行」と定義する¹⁾。

(5) 補注、引用・参考文献の本文末の表記

引用・参考文献は以下の形式で記載する。参考ページは、p.28 あるいは pp.105-112 のように表記する。引用・参考文献における日本語、英語以外の表記については、和訳、もしくは英訳を併記すること。

1) 単行本の場合

例 1 著者名 (公刊西暦年号) : 書名, 発行所, 参考ページ

例 2 著者名 (公刊西暦年号) : 論文名 (編著者名『書名』, 発行所), 参考ページ

例 3 外国語の場合
著者のファミリーネーム, ファーストネーム (公刊西暦年号) : タイトル: サブタイトル, 出版都市, 出版社, 参考ページ

2) 雑誌の場合

例 4 著者名 (公刊西暦年号) : 論文名, 掲載雑誌名, 巻 (号), 参考ページ

例 5 外国語の場合
著者のファミリーネーム, ファーストネーム (公刊西暦年号) : 論文のタイトル, 雑誌名 (イタリック体), 巻(号), 参考ページ

3) インターネット上の情報の場合

例 6 著者名 : ウェブページタイトル, アドレス (URL), 言語の表示, 閲覧日付

4) 新聞記事の場合

例 7 記事執筆者名 : 記事のタイトル, 収録新聞名, 朝刊/夕刊の別, 発行年月日, 掲載面

6. PDF ファイル作成に関連した注意事項

受理された原稿は、J-STAGE 上で PDF ファイル形式により公開されるため、MS-Word を用いた原稿作成時には下記に注意すること。

(1) PDF ファイルサイズ

高解像度の写真や図表を掲載することも可能であるが、PDF ファイルに変換した場合、概ね 3MB 以下になるよう解像度 (600dpi 以下) を心掛けること。その場合、PDF のバージョンは PDF1.4 以上のバージョンとすること。

(2) フォントについて

閲覧者の環境に左右されることなく、論文の文字表示が確実に行えるようにするため、機種依存文字、外字フォントの使用は極力避けること。なお、代表的な機種依存文字等は下記のようなものがある。

